

# CASIO

株主の皆様へ

2002年度中間事業報告書

2002年4月1日～2002年9月30日



カシオ計算機株式会社

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2002年度中間期(2002年4月1日~2002年9月30日)の事業概況についてご報告申し上げます。

### ○業績および全般概況

当中間期の経営環境は、国内においては引き続き個人消費が低迷するなど景気の先行きに対する不透明感が拭えない状況が続きました。米国においては個人消費を中心に一部底堅い動きを見せましたが株安やIT関連需要の低迷により景気減速感が強まり、欧州も景気回復のペースに鈍化が見られるなど、総じて厳しい状況が続きました。

このような環境下、当社は時計並びにデジタルカメラ、MNS(Mobile Network Solution)といった戦略事業を強力に推進・展開するとともに、資本効率の向上、固定費の抜本的削減など経営効率化に注力を図ってまいりました。この結果、連結売上高は前年同期比2.8%増の2,097億円、営業利益は同82億円増の87億円、経常利益は同100億円増の58億円、中間純利益は同65億円増の23億円となりました。

### ○部門別概況

エレクトロニクス機器事業の売上高は、前年同期比8.1%増の1,690億円となりました。コンシューマ部門は、デジタルカメラのNEWジャンルを拓いた世界最薄カードカメラが好評を博し、撤退縮小したワープロ・オーディオの売上減少分を補い堅調に推移いたしました。時計部門は、標準電波受信とソーラー駆動を全ての腕時計の基本性能にすべくラインアップを拡充するなど、当社の技術を前面に出した分野での展開を積極的に行い順調に推移いたしました。MNS部門はauブランドでは初となるカメラ付き第三代携帯電話のヒットにより大きく

売上を伸ばしました。情報機器部門は最適なハードウェアとアプリケーションを組み合わせさせた様々なソリューション展開を図りましたが、世界的なIT関連需要の低迷による投資需要の減退の影響を受け減収となりました。

デバイスその他事業の売上高は、前年同期比14.4%減の407億円となりました。デバイス部門は、TFT事業がデジタルカメラの活況を受け復調傾向にあり、BUMP事業も堅調に推移しておりますが、STN市場の縮小や価格下落の影響を大きく受け、全体では減収となりました。

損益につきましては、戦略事業における商品力強化による付加価値の大幅改善、経営の効率化を主眼とした全グループを挙げての事業改革施策の取り組みに努めた結果、営業利益はエレクトロニクス機器事業で前年同期比97億円増の92億円、デバイスその他事業で同12億円減の19億円となり、消去または全社考慮後の連結合計として87億円となりました。

### ○通期の見通し／重点施策

当社は前期に実施した経営体質強化策を継続して推進し、中長期の経営の安定化に向け、積極的な諸施策を展開してまいります。

#### ①事業拡大施策

当社が有するコア技術を活用し、戦略事業である時計並びにデジタルカメラ、MNSにおいて、長期的視点に立った収益強化のための対策を進めてまいります。電波時計はGショックに電波ソーラー機能を搭載した「The G」や、女性向けの電波機能つき「Baby-G」の投入でラインアップを拡充。デジタルカメラではカードカメラ「EXILIM」シリーズおよびスタイリッシュコンパクトの分野を核に、新しい用途を開拓してまいります。MNSでは第三代携帯電話を強化し、auにおけるトップシェアの維持を図ってまいります。



## ② 構造改革

前期に実施済みの固定費80億円削減の効果を早期に取り込むとともに、EMS(電子機器の製造委託サービス)会社との提携などによりコスト競争力の向上、生産リードタイム短縮、生産変動への対応能力の強化を図ります。また、国内外の拠点再編による資産の圧縮・効率的運用をさらに推進し、今期末までに合計150億円の固定費削減の達成を確実なものとしてします。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2002年12月

榎尾和雄

取締役社長

## 業績ハイライト(連結)

科 目	中間期 2002年度	中間期 2001年度	通期 2001年度
売 上 高(百万円)	209,790	204,015	382,154
経 常 利 益(百万円)	5,827	△4,211	△17,824
中間(当期)純利益(百万円)	2,333	△4,209	△24,928
1株当たり中間(当期)純利益(円)	8.63	△15.50	△91.82

2

## 目 次

ごあいさつ .....	1
業績ハイライト(連結) .....	2
部門別の概況(連結) .....	3
グループ会社プロフィール .....	5
トピックス .....	7
主要財務指標(連結) .....	9
要約財務諸表(連結) .....	10
要約財務諸表(単独) .....	12
株式情報 .....	13
会社概要 .....	14
役員 .....	14
株主メモ .....	裏表紙

### エレクトロニクス機器事業

#### • コンシューマ部門

ワープロ・オーディオの撤退縮小により売上が減少したものの、従来のデジタルカメラとは全く異なる新しいコンセプトの世界最薄カードカメラが好調に推移し、この部門全体の売上高は前年同期比0.8%減の636億円となりました。

#### • 時計部門

標準電波を受信し時刻を自動修正する電波機能と、電池交換不要のソーラー駆動を全ての腕時計の基本性能にすべくラインアップを拡充するなど、当社の技術を前面に出した展開を積極的に行った結果、この部門の売上高は前年同期比10.1%増の331億円となりました。

#### • MNS部門

auブランドでは初となるカメラ付き第三代携帯電話のヒットにより大きく売上を伸ばし、この部門の売上高は前年同期比47.7%増の468億円となりました。

#### • 情報機器部門

最適なハードウェアとアプリケーションを組み合わせたさまざまなソリューション展開を図りましたが、世界的なIT関連需要の低迷による投資需要の減退の影響を受け、この部門の売上高は前年同期比16.4%減の254億円となりました。

### デバイスその他事業

#### • デバイス部門

TFT事業がデジタルカメラの活況を受け復調傾向にあり、BUMP事業も堅調に推移したものの、STN市場の縮小や価格下落の影響を大きく受けて全体では前年同期比15.8%減の259億円の売上高となりました。

#### • その他部門

フレクストロニクス社との製造委託提携のため愛知カシオの独自事業を整理した影響などから、この部門の売上高は前年同期比12.0%減の147億円となりました。

### EXILIM EX-S1



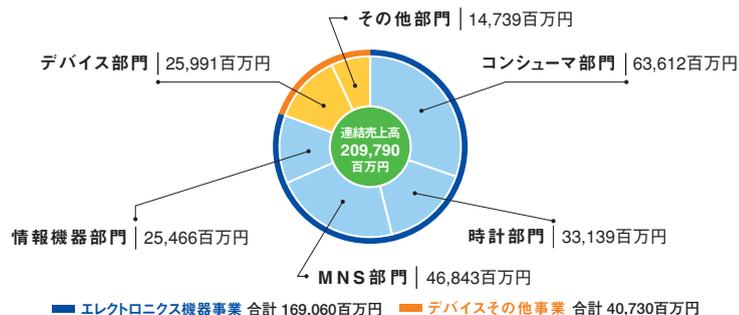
厚さ11.3m  
ディに本格  
したカード  
タルカメラ。  
撮影可能、  
ムラグ0.01  
ンスで、シャ  
逃がしませ

### ウェーブセプター WV-100



日本とアメ  
に対応した  
電波時計で  
所在地のタ  
するだけで、  
確な時刻を  
ます。

### 部門別売上高



### エクワード XD-S8500

mの世界最薄ボ  
的な性能を凝縮  
サイズ液晶デジ  
起動後約1秒で  
またリリースタイ  
秒の高速レスポ  
ッターチャンス  
をん。



英単語の発音を音声により確認できる英和辞典と、英英辞典や和英辞典、英語類語辞典などを収録した英語学習に最適な音声電子辞書です。

### セルヴィアーノ フェルティ PS-20

場所を取らないスリムボディながら、グランドピアノの音と鍵盤タッチを追求した電子ピアノです。アルミ素材を贅沢に使い、インテリアと調和する美しいデザインに仕上げました。



### ツールコンセプト PRG-50

リカの標準電波  
ソーラー駆動の  
ず。アメリカでは  
イムゾーンを設定  
標準電波から正  
計算し表示し



SOIなどの省電力技術を駆使して、従来は困難だった方位や高度などのセンサー計測をソーラー駆動で実現した高性能アウトドアウォッチです。

### ディスクタイトルプリンター CW-70

CD-Rにタイトルを直接印刷できるディスクタイトルプリンターです。パソコン接続で使用するほか、文字入力用のキーボードを備えているので、本体だけで入力から印刷までが可能です。



### A3012CA



au初のカメラ付き携帯電話です。有効画素31万画素の内蔵カメラで撮影した画像をメールで送信したり、本体に最大800枚保存できます。auの位置情報サービス「eznavigation」にも対応しています。

### English Challenger TE-700

通勤や通学途中でも本格的なTOEICテストの練習が行える、手のひらサイズのモバイル電子学習機です。高精細カラー液晶画面とステレオイヤホンでの視聴覚学習ができます。







### 確かな品質と信頼性で価値創造を目指す

今後は生活のあらゆる領域にITが浸透し、水や空気のような存在になります。時と場所を問わずに情報を入手できる「ユビキタス社会」の実現のためには、ウェアラブル・コンピューターなどの多彩な情報端末と、これらを制御し連携させるソフトウェア技術が不可欠です。

カシオソフトはカシオグループを最大の顧客としてソフトウェア開発を行っていますが、受託開発で培ったノウハウを活かし、独自事業も積極的に手がけています。特にモバイル端末を活用したソリューションはカシオソフトならではの得意分野であり、お客様に高い評価をいただいております。カシオグループ向けの事業で得た技術とノウハウを独自事業に

フィードバックして競争力強化につなげ、事業の拡大を目指していく所存です。

お客様の業務を快適にサポートするため、開発にあたっては品質と信頼性を最重視しています。ソフトハウスの開発能力を測る国際的指標「CMM」(Capability Maturity Model)の獲得を目指すなど、品質の高揚と維持に日々努めております。また2001年1月には上海に現地法人を設立し、コスト競争力の強化をも図っております。

カシオソフトは技術力・人材力・ソリューション力を結集し、新たな価値の創造を目指して日々努力してまいります。

#### PRESIDENT



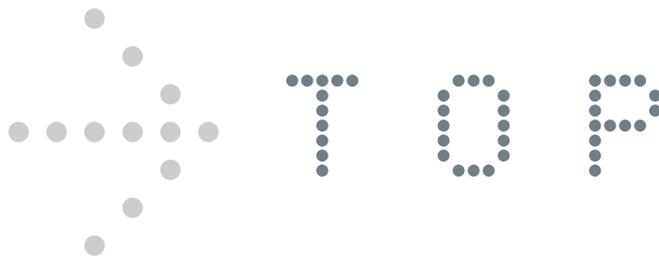
#### 取締役社長 遠藤 克廣

1973年カシオ計算機入社 取締役 電卓事業本部長、同コンシューマ情報機器事業部長、同技術センター長兼品質・環境センター長を経て、1999年6月、カシオソフト株式会社社長就任、現在に至る。

#### 会社概要



- 社 名  
カシオソフト株式会社
  - 所 在 地  
〒164-0012  
東京都中野区本町3-23-3 新中野AM-1ビル
  - 設 立  
1980年5月(1999年6月カシオソフト株式会社に改称)
  - 売 上 高  
36億9,000万円(2001年度)
  - 資 本 金  
8,000万円(2002年9月30日現在)
  - 従 業 員 数  
269人(2002年9月30日現在)
  - 事 業 内 容
    - コンピューター、モバイル機器によるソリューションの提供
    - コンピューターの各種ソフトウェアの開発、受託、販売
    - 音声応答システム販売
- URL: <http://www.casiosoft.co.jp>



### カードカメラ「EXILIM」が好調



当社はカードサイズの液晶デジタルカメラ「EXILIM」を6月に発売。厚さわずか11.3mmの世界最薄ボディに本格的な性能を搭載しました。起動後1秒で撮影可能、シャッターボタンを押してから画像が記録されるまで約0.01秒。次の画像が撮影可能になるまで約0.6秒。このクイックレスポンスによりシャッターチャンスを逃しません。また大型セルCCDの採用で鮮明な画質を実現しました。薄型化と高性能の両立には、インバートテッサー方式のレンズ構成に新開発CCDを組み合わせたHCLi(Hyper CCD-Lens integration)、処理チップをシリコンチップレベルでモジュール化したMCM(Multi Chip Module)、

アナログ信号へのコンバータを不要にした「デジタルインターフェースTFT液晶」など、当社独自の技術が駆使されています。「EXILIM」は、いつでも携帯して好きな時に撮影できるウェアラブル・カードカメラという新しい分野を開拓し、大ヒットを記録しています。同機の斬新なデザインは今年の「グッドデザイン賞」の金賞も受賞しました。好評のため8月からは月産台数を当初の倍の10万台(シリーズ合計)に増強。9月には200万画素モデルも登場し、今期の販売台数は100万台を計画しています。今後もデジタルカメラ事業の核として、ラインアップを拡充していく予定です。

### フレクストロニクス社と提携

速い商品サイクルへの柔軟な対応、市場競争のグローバル化に対応するコスト競争力の強化などを実現するため、当社は今期、電子機器の製造委託サービス(EMS)の世界最大手であるシンガポールのフレクストロニクス社と提携を結びました。これにより従来の自社製品の製造ノウハウを活かしつつ、価格競争力の向上や生産リードタイムの短縮などの効果が期待されます。



#### 欧州エアバス航空機の操縦席用に 液晶パネルを供給



高度、速度、位置情報、管制塔からの指示など、多彩な情報が表示される航空機の操縦席。当社はこのたび、欧州エアバス社のA340型機の操縦席に搭載する表示パネルの供給を開始しました。航空機での厳しい使用条件に耐える高い耐久性と信頼性、昼間から夜間まであらゆる光線下で鮮明な画像が表示でき、かつ操縦士席・副操縦士席のどちらからでも全く同じ情報を見ることができる優れた視認性を実現した当社の液晶技術が高く評価されたものです。供給を開始したのは8.8インチ高精細TFT液晶パネルで、1機あたり6枚使用されており、今年度中に約1,000枚、2005年度には3,000枚を供給していく予定です。

#### 「プロジェクトX」で、デジカメ開発物語が放映



写真提供NHK

戦後の画期的な事業を実現させてきた一般の日本人を採り上げるNHKの人気番組「プロジェクトX」。7月2日放送分にて当社が採り上げられました。内容は1995年、当社が初めて世に送り出した普及型の液晶デジタルカメラ「QV-10」をめぐる開発ストーリー。挫折や苦悩を味わいながら進んだ商品化までの長い道のりが、開発者や経営トップの談話をまじえて再現されました。放映後、番組をご覧になったお客様から、たくさんのご感想が当社へ寄せられました。

## 主要財務指標（連結）

## CONSOLIDATED THREE-YEAR SUMMARY

科 目	中間期	中間期		通期		
	2002年度	2001年度	2000年度	2001年度	2000年度	1999年度
<b>経営成績</b>						
売 上 高（百万円）	<b>209,790</b>	204,015	213,451	382,154	443,930	410,338
経 常 利 益（百万円）	<b>5,827</b>	△4,211	5,702	△17,824	11,886	14,210
中間(当期)純利益（百万円）	<b>2,333</b>	△4,209	2,797	△24,928	6,547	6,173
1株当たり中間(当期)純利益（円）	<b>8.63</b>	△15.50	10.30	△91.82	24.11	22.73
<b>財政状態</b>						
総 資 産（百万円）	<b>433,929</b>	437,159	442,494	449,224	445,883	507,105
株 主 資 本（百万円）	<b>131,234</b>	151,667	158,564	134,317	162,375	169,634
1株当たり株主資本（円）	<b>485.44</b>	558.47	583.87	495.68	597.90	624.63
<b>その他</b>						
設 備 投 資 額（百万円）	<b>3,347</b>	*7,852	18,624	*15,737	30,278	35,546
減 価 償 却 費（百万円）	<b>6,662</b>	*6,658	14,215	*14,465	22,065	30,220
研 究 開 発 費（百万円）	<b>6,678</b>	7,646	6,496	14,085	11,968	12,338

\*前期との減少の主な要因は、カシオリース株式会社が2000年9月期に持分法適用会社に変更となったことによるものです。

# 要約財務諸表（連結）

# CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

## 貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	当中間期末 (2002年9月30日現在)	前年度末 (2002年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>		
<b>流動資産</b>	<b>273,712</b>	<b>281,985</b>
現金及び預金	66,616	82,956
受取手形及び売掛金	81,529	82,465
有価証券	30,716	22,156
たな卸資産	71,025	74,881
繰延税金資産	13,104	12,311
その他	12,823	9,478
貸倒引当金	△2,101	△2,262
<b>固定資産</b>	<b>160,217</b>	<b>167,239</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>97,660</b>	<b>104,255</b>
建物及び構築物	32,046	34,185
機械装置及び運搬具	17,439	20,255
工具器具備品	8,398	8,648
土地	39,009	39,998
建設仮勘定	768	1,169
<b>無形固定資産</b>	<b>9,241</b>	<b>9,816</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>53,316</b>	<b>53,168</b>
投資有価証券	33,417	31,240
繰延税金資産	12,431	14,011
その他	8,952	9,361
貸倒引当金	△1,484	△1,444
<b>資産合計</b>	<b>433,929</b>	<b>449,224</b>

科 目	当中間期末 (2002年9月30日現在)	前年度末 (2002年3月31日現在)
<b>(負債の部)</b>		
<b>流動負債</b>	<b>117,340</b>	<b>166,026</b>
支払手形及び買掛金	59,242	43,622
短期借入金	12,611	26,786
1年内返済予定長期借入金	1,492	910
1年内償還予定社債	—	50,000
未払法人税等	1,365	738
未払費用	12,778	13,062
その他	29,852	30,908
<b>固定負債</b>	<b>182,787</b>	<b>146,139</b>
社債	62,000	62,000
転換社債	23,811	23,811
長期借入金	83,023	48,260
繰延税金負債	2,029	2,030
退職給付引当金	11,362	9,497
その他	562	541
<b>負債合計</b>	<b>300,127</b>	<b>312,165</b>
<b>(少数株主持分)</b>		
<b>少数株主持分</b>	<b>2,568</b>	<b>2,742</b>
<b>(資本の部)</b>		
資本金	41,549	41,549
資本剰余金	57,523	57,885
利益剰余金	40,295	41,708
その他有価証券評価差額金	△2,889	△1,825
為替換算調整勘定	△5,180	△4,981
自己株式	△64	△19
<b>資本合計</b>	<b>131,234</b>	<b>134,317</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>433,929</b>	<b>449,224</b>

## 要約財務諸表（連結）

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

### 損益計算書

（単位：百万円）

科 目	当中間期 (2002年4月1日から 2002年9月30日まで)	前中間期 (2001年4月1日から 2001年9月30日まで)
売 上 高	209,790	204,015
売 上 原 価	149,175	148,646
販売費及び一般管理費	51,831	54,852
営 業 利 益	8,784	517
営 業 外 収 益	1,664	1,175
営 業 外 費 用	4,621	5,903
経 常 利 益	5,827	△4,211
特 別 利 益	176	3,656
特 別 損 失	825	5,517
税金等調整前中間純利益	5,178	△6,072
法人税、住民税及び事業税	1,237	1,318
法人税等調整額	1,572	△3,078
少数株主利益	△36	103
中 間 純 利 益	2,333	△4,209

### キャッシュ・フローの状況

（単位：百万円）

科 目	当中間期 (2002年4月1日から 2002年9月30日まで)	前中間期 (2001年4月1日から 2001年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	35,310	1,261
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,220	△14,297
財務活動によるキャッシュ・フロー	△32,130	3,803
現金及び現金同等物の中間期末残高	92,185	72,100

### 事業の種類別セグメント情報

（単位：百万円）

科 目	当中間期 (2002年4月1日から 2002年9月30日まで)	前中間期 (2001年4月1日から 2001年9月30日まで)
売 上 高		
エレクトロニクス機器事業	170,284	157,618
デバイスその他事業	56,013	67,948
消去又は全社	△16,507	△21,551
合 計	209,790	204,015
営 業 利 益		
エレクトロニクス機器事業	9,243	△481
デバイスその他事業	1,950	3,155
消去又は全社	△2,409	△2,157
合 計	8,784	517

### 地域別売上高

（単位：百万円）

		当中間期 (2002年4月1日から 2002年9月30日まで)	前中間期 (2001年4月1日から 2001年9月30日まで)
日	本	128,269	125,287
北	米	25,487	28,394
欧	州	24,041	23,760
ア	ジ	18,585	14,079
そ	の	13,408	12,495
合	計	209,790	204,015

# 要約財務諸表（単独）

NON-CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

## 貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	当中間期末 (2002年9月30日現在)	前年度末 (2002年3月31日現在)
<b>（資産の部）</b>		
<b>流動資産</b>	<b>227,632</b>	<b>226,695</b>
現金及び預金	45,974	60,068
受取手形金	8,128	7,646
売掛金	77,413	70,691
有価証券	30,716	22,156
たな卸資産	30,940	35,580
繰延税金資産	11,101	10,094
未収入金	15,440	12,087
その他	8,756	9,199
貸倒引当金	△840	△830
<b>固定資産</b>	<b>164,483</b>	<b>169,699</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>69,241</b>	<b>71,222</b>
建物	22,564	23,243
土地	29,475	29,475
その他の	17,202	18,503
<b>無形固定資産</b>	<b>6,595</b>	<b>7,141</b>
投資その他の資産	88,646	91,335
投資有価証券	31,089	28,900
関係会社株式	33,654	35,833
繰延税金資産	14,930	17,200
その他	10,282	10,840
貸倒引当金	△1,310	△1,440
<b>資産合計</b>	<b>392,116</b>	<b>396,394</b>

科 目	当中間期末 (2002年9月30日現在)	前年度末 (2002年3月31日現在)
<b>（負債の部）</b>		
<b>流動負債</b>	<b>89,081</b>	<b>124,822</b>
支払手形	9,789	5,717
買掛金	32,138	23,998
短期借入金	19,037	18,716
1年内返済予定長期借入金	500	500
1年内償還予定社債	—	50,000
未払金	18,911	15,195
未払法人税等	43	44
製品保証等引当金	770	650
その他	7,891	10,000
<b>固定負債</b>	<b>166,664</b>	<b>133,345</b>
社債	60,000	60,000
転換社債	23,811	23,811
長期借入金	75,700	43,950
退職給付引当金	7,153	5,584
<b>負債合計</b>	<b>255,745</b>	<b>258,167</b>
<b>（資本の部）</b>		
<b>資本金</b>	<b>41,549</b>	<b>41,549</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>57,522</b>	<b>57,885</b>
資本準備金	57,522	57,885
<b>利益剰余金</b>	<b>40,253</b>	<b>40,645</b>
利益準備金	7,090	7,090
任意積立金	26,527	50,641
中間(当期)未処分利益	6,635	△17,086
その他有価証券評価差額金	△2,890	△1,833
自己株式	△64	△18
<b>資本合計</b>	<b>136,370</b>	<b>138,227</b>
<b>負債資本合計</b>	<b>392,116</b>	<b>396,394</b>

## 損益計算書

（単位：百万円）

科 目	当中間期 (2002年4月1日から 2002年9月30日まで)	前中間期 (2001年4月1日から 2001年9月30日まで)
<b>売上高</b>	<b>172,720</b>	<b>169,175</b>
売上原価	135,762	137,318
販売費及び一般管理費	30,991	31,531
<b>営業利益</b>	<b>5,966</b>	<b>325</b>
営業外収益	3,510	2,953
営業外費用	4,339	5,771
<b>経常利益</b>	<b>5,136</b>	<b>△2,492</b>
特別利益	597	4,835
特別損失	677	5,968
<b>税引前中間純利益</b>	<b>5,055</b>	<b>△3,625</b>
法人税、住民税及び事業税	30	35
法人税等調整額	2,030	△2,009
<b>中間純利益</b>	<b>2,995</b>	<b>△1,651</b>
前期繰越利益	3,640	3,752
<b>中間未処分利益</b>	<b>6,635</b>	<b>2,101</b>

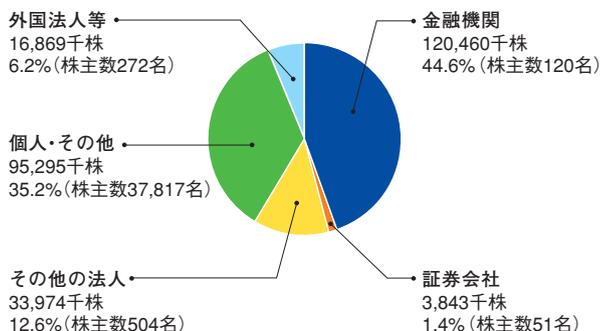
# 株式情報

STOCK INFORMATION

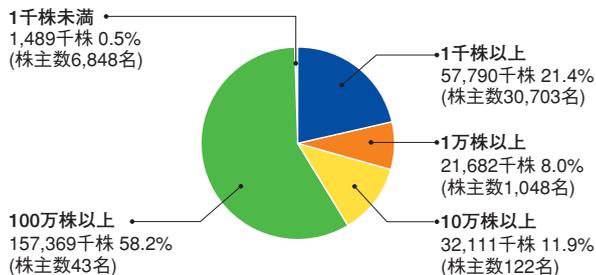
## 株式の状況 (2002年9月30日現在)

発行する株式の総数	471,693,000株
発行済株式数	270,442,868株
株主総数	38,764名
所有状況	

### ◆所有者別内訳



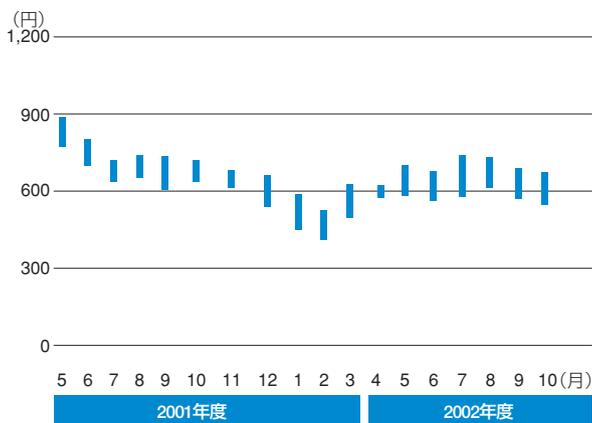
### ◆所有株式数別内訳



## 大株主 (2002年9月30日現在)

株主名	持株数	議決権比率
	千株	%
株式会社三井住友銀行	13,521	5.06
日本生命保険相互会社	12,170	4.55
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	11,975	4.48
有限会社カシオプロス	10,000	3.74
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	7,619	2.85
UFJ信託銀行株式会社 (信託勘定A口)	6,650	2.49
株式会社UFJ銀行	5,947	2.22
櫻尾俊雄	5,367	2.01
住友生命保険相互会社	5,282	1.98
三井住友海上火災保険株式会社	4,582	1.71

## 株価の推移



## 会社概要

COMPANY PROFILE

### 会社概要 (2002年9月30日現在)

商号	カシオ計算機株式会社
英文商号	CASIO COMPUTER CO.,LTD.
本社	東京都渋谷区本町1丁目6番2号 TEL:03-5334-4111 (代表)
設立年月日	1957年(昭和32年)6月1日
資本金	41,549,450,111円
従業員数	3,323名

### 主要製品 (連結)

#### エレクトロニクス機器事業

- **コンシューマ部門**  
電卓、電子文具、電子辞書、液晶テレビ  
他映像機器、デジタルカメラ、電子楽器
- **時計部門**  
デジタルウォッチ、アナログウォッチ、  
クロック
- **MNS部門**  
モバイルPC、携帯電話、ポケットコンピ  
ューター、ハンディターミナル
- **情報機器部門**  
電子レジスター(POS含む)、オフィス  
コンピューター、ページプリンタ

#### デバイスその他事業

- **デバイス部門**  
LCD、BUMP受託加工、フィルムデバイス
- **その他部門**  
FA機器、金型、玩具

## 役員

DIRECTORS

### 取締役・監査役 (2002年9月30日現在)

榎尾俊雄	代表取締役会長
*榎尾和雄	代表取締役社長
*榎尾幸雄	代表取締役副社長
*前野重喜	専務取締役 開発・技術担当
*斧江伸一	専務取締役 通信事業部長
*羽方将之	常務取締役 研究・開発・知的財産担当
*清水修	常務取締役 技術・品質・環境・資材戦略・デザイン担当
*鈴木洋三	常務取締役 営業本部長
*高木明德	常務取締役 経理・資金・IR担当
*小野佳男	常務取締役 開発本部長
*蛸久紀元	取締役 デバイス事業部長*
*近内勝美	取締役 システム事業部長
本多健	監査役(常勤)
高山厚仁	監査役
大徳宏教	監査役 公認会計士・税理士

(\*印の役員は執行役員を兼務しています)

※蛸久紀元は9月30日をもって取締役を退任し、10月1日付でカシオマイクロニクス(株)社長に就任しております。

### 執行役員 (2002年9月30日現在)

取締役を兼務する者以外の執行役員は以下のとおりです。

鈴木孝彰	特命担当
高須正	開発センター長
佐藤直満	営業本部 企画管理部長
中村巖	営業本部 国内営業統轄部長
佐藤修逸	システム事業部 モバイル国内営業統轄部長
宮本眞成	総務・人事統轄部長
蜂谷清隆	営業本部 欧米営業部長
馬渡惇	デバイス事業部 副事業部長
武市浩一	総合企画部長
梅田富源	営業本部 国内営業統轄部 関東営業部長
榎尾彰	システム事業部 副事業部長
山本新次	システム事業部 システム営業統轄部長
竹内榮一	要素技術開発部長
大石健樹	通信事業部 副事業部長
村上文庸	開発本部 第一コンシューマ統轄部長

# カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町1丁目6番2号

## 株主メモ

決算期	3月31日	同取次所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
定時株主総会	6月	単元未満株買取請求先	同上
基準日	3月31日 そのほか必要があるときは、あらかじめ 公告して定めた日	公告掲載新聞	日本経済新聞
配当金	決算期日現在の株主または登録質権者 にお支払いいたします。なお、中間配当制度 はございません。	上場証券取引所	東京・大阪・アムステルダムおよび フランクフルト
株式名義書換代理人	大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社		
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部		
郵便物送付先 および電話照会先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 (住所変更用紙のご請求) ☎0120-175-417 (その他のご照会) ☎0120-176-417 (インターネットホームページURL) <a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/ STA/retail/service/daiko/index.html</a>		

<本事業報告書に関するお問い合わせ先>  
カシオ計算機株式会社 総務部総務課  
TEL: 03-5334-4845